

## ◆ 今週のコメント

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、第17週(4月23日～4月29日)が2.40(163例)、第18週(4月30日～5月6日)には0.72(49例)となっており、第18週に流行の目安となる「1」未満となりました。第18週は大型連休を挟む週で、例年この時期は全般的に報告数が減少する傾向がみられます。
- ・ A群溶血性レンサ球菌感染症の定点当たり報告数は、第17週 1.71(70例)、第18週 0.78(32例)となっています。第17週は第16週(1.56)より増加し、同時期の過去5年平均値(0.88)を大きく上回っていますが、第18週は大幅に減少しています。例年大型連休の後、増加する傾向がありますので、今後の動向に御注意ください。
- ・ 基幹定点からのマイコプラズマ肺炎の報告が、第17週、第18週連続して各1例あります。全国の定点当たり報告数は、第17週0.69、第18週0.66で、平成23年の第49週(12月5日～11日)1.51をピークに減少していますが、過去の同時期と比較して高い状態が続いています。

## ◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、第17週 12.68(520例)、第18週 6.29(258例)となっており、第15週(4月9日～4月15日)から第17週まで連続して増加していましたが、第18週は連休の影響もあり減少しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 3例(肺結核 3例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例  
【1月以降の累積報告数 144例(肺結核 57例, その他結核 33例, 潜在性結核感染者 54例)うち喀痰塗抹陽性 31例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	第18週		第17週	
		定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.72	49	2.40	163
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.29	258	12.68	520
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.78	32	1.71	70
	③ 水痘	0.76	31	0.90	37
	④ 突発性発しん	0.32	13	0.46	19
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.22	9	0.15	6
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1	0.30	3

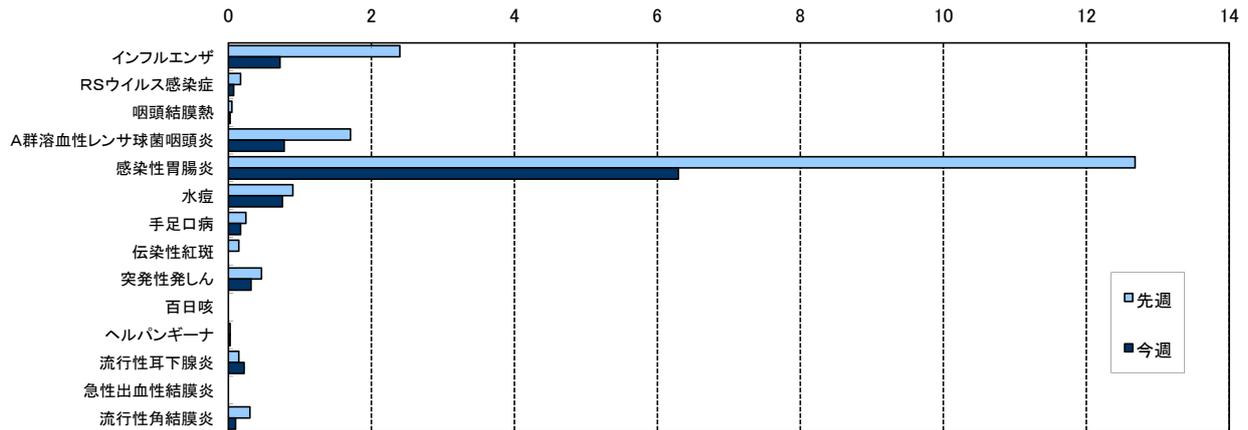
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは、平成24年5月10日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

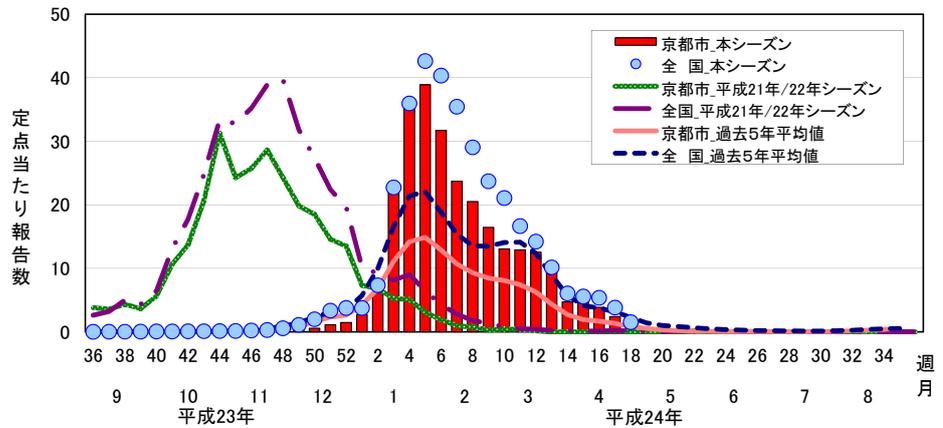
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第18週)と先週(第17週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第14週	321
第15週	310
第16週	263
第17週	163
第18週	49
累積報告数 (第36週以降)	17,418



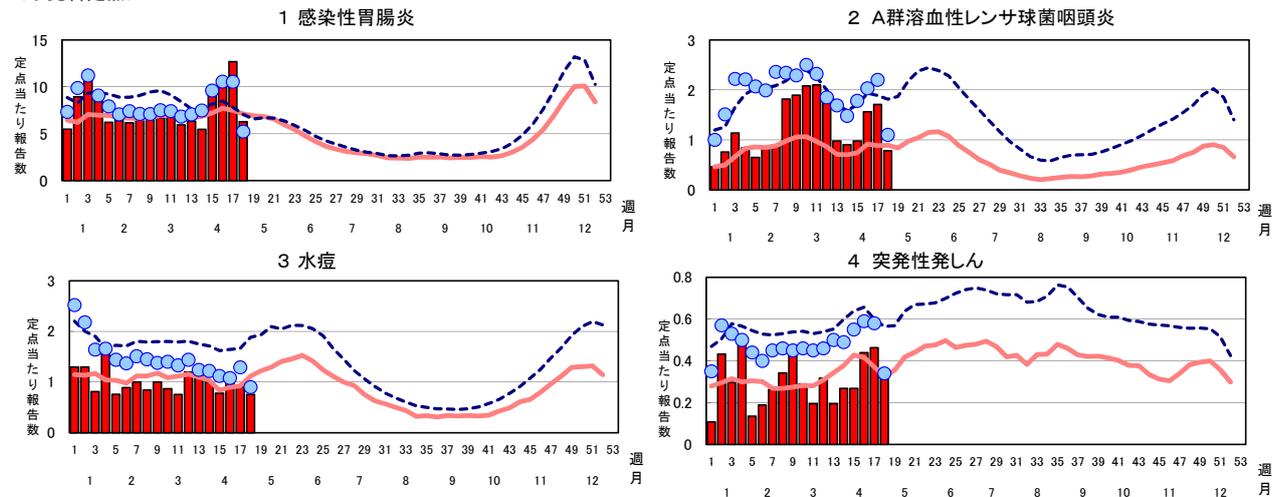
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。

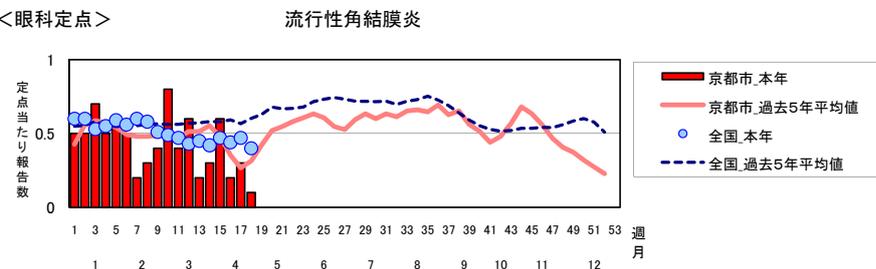
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



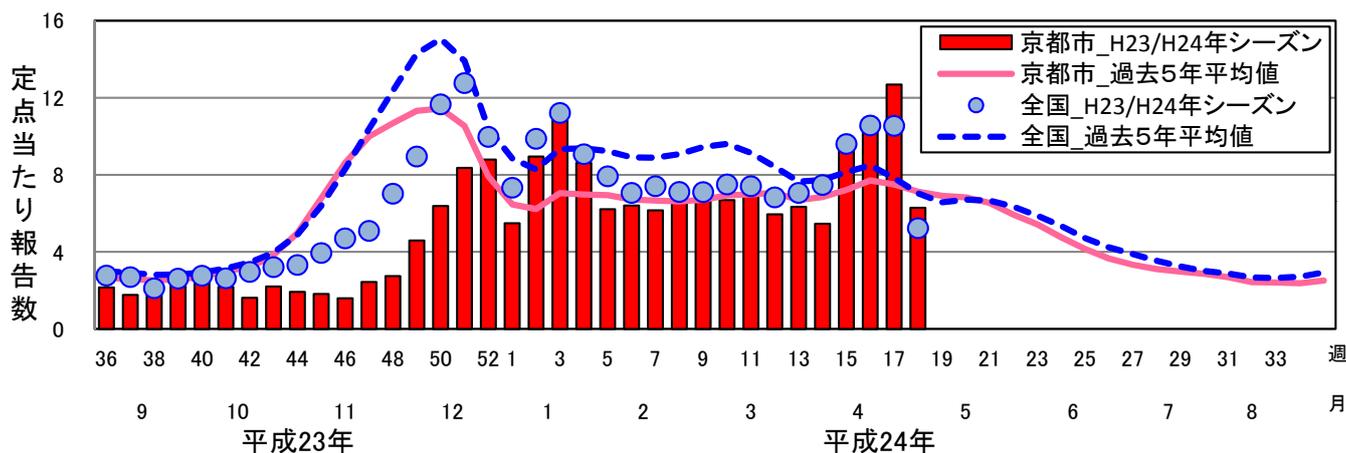
# 合併号(4月23日～5月6日)トピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、前週の第17週 12.68(520例)まで連続して増加していましたが、第18週は連休の影響もあり 6.29(258例)と減少しています。

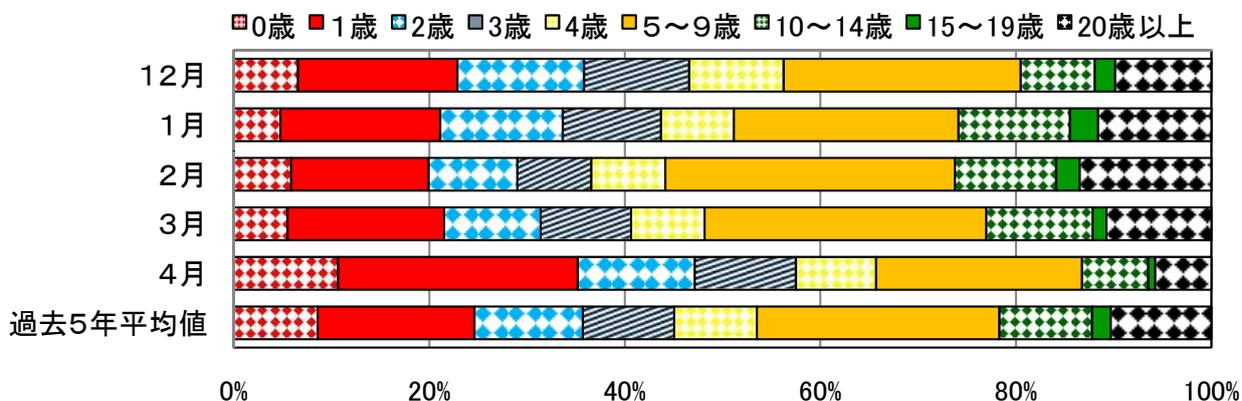
年齢群別では、1歳以下の割合が12月～3月は20%前後で推移していましたが、4月には35.2%となり、第17週は34.6%、18週は34.9%となっています。10歳以上の割合は、12月～3月までは20～26%でしたが、4月には約13%と少なくなっています。

京都市衛生環境研究所で受け付けた感染性胃腸炎の検体からのウイルスの検出状況を見ると、2月まではノロウイルスGⅡが最も多く検出されていましたが、3月以降ロタウイルスの割合が増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別報告数の推移



感染性胃腸炎の検体から検出されたウイルスの推移(京都市)

